

「髪飾り」

作 はまの省蔵

マツ 36歳 女 十五年間 夫の義之との間に子供が産まれず悩む

性格は内弁慶なところがあり、外ではおしとやかな性格に見えるが、自宅では夫 義之に対しては、キツイ性格である。根はやさしい性格であるが夫の雑な性格に対ししっかりと切りなればと家では厳しく夫にあたる。

義之 42歳 男 十五年間 嫁 マツと共にする。容姿は特に目立った風ではなく、飄々としたなりとしゃべりが母性本能をくすぐるのか女性にはウケが良い。家ではほとんどしゃべらず無口でおとなしい。マツに対しては従順で逆らうことがない

あらすじ

中年夫婦の物語

時代は昭和初期 日本は戦争により産めよ増やせよの世の中。場所は、閑静な街中。つましいたつましいの一軒家に狭いながらも庭のある家
午後9時前、外は月明りでほんのりと明るい

家の前を歩く人の姿は、ほとんどないが、時々遠くに足音だけが聞こえる
十五年連れ添った夫婦には子供がいない

夫 義之は子供ができないのは、自分のせいではないかと考える。子供がほしそうなマツをみて申し訳なく思う。片や、マツも子供ができないのは自分のせいではないかと思っっている。

義之は子供の欲しそうなマツを見かね、離婚届を密かに書き帰宅する

マツは、体の異変を覚え産婆のもとに向かうと妊娠していることがわかる

妊娠をしているマツと、それを知らない義之が夫婦仲、お互いの気持ちを確かめ合う

ある晩の夫婦 食卓の物語

自宅居間

マツ おや、帰ってきたようだね、お帰り

義之の声 たいま

マツ たいまじゃないよ。こんな時間までどこほつつき歩いてたんだい！お天道様

義之 ああ、ちいと仕事仲間と軽るう飲んどったんじや

マツ ほうねえ。じゃあ夕飯は要らんね

義之 いや、軽るう食べるか

マツ なんね、結局夕飯が要るんね。まあ大したおかずがあるわけでもないんじやが。

義之 ええわ支度するわ

マツ ああそうしてえや

義之 よっこらしよと、仕方ないね。ご亭主様の まんまの支度でもするかいね

マツ まあそう言うなや。ワシでも仲間内と積もる話があるんじやけえ

台所に入っていくマツ

マツの声 今日はいそがしかったんじやね？

義之 ああ そうでもないが、いつもように、あれやこれやとあつてのう

戻ってくるマツ

マツ 今晩は、遅いけえ、これくらいにしとくかね。あんたは支度したら支度した分だけ全部ペロツと食べてしま。ウチがそのくらいにしときんさい言うてもあんたは、マツがこさえたものを残したらバチが当たる言うて聞かんのじやけえ

義之 そりや悪かったの 今夜はどうしたんな？一品多いの なんかええことあつた

マツ なんか？ 魚も干物じやあのうち、サバ焼きか？お豆さんもうまそうじやのう

マツ たまには、ええじやろう

義之 わしは、訳がどうであれ、おかずが多いのはうれしいがのう。

マツ そーいやあ、角の写真屋の息子さん、今度お嫁さんを貰うんじやと

義之 ほうか。えかったのう

マツ 若いってエエわいねえ。ウチたちもあがな頃があつたんよね

義之 そうじやのお

マツ あんたは、覚えとるんかね あんたと、ウチの出会ったときのこと

義之 ああ

マツ あの日は暑い夏の朝じやったろ？、朝から暑いで調子がようなかったんよ、

外に出て二、三軒 店の横を通ったとたん。クラツと

義之 ほうじやったんか？

マツ ほうじやんたんか？じやないよね。ウチはあの時どうしようか思ってたんよ。あ

れ？またナマズさんが悪さしよるんか？思うたら目の前が真つ暗になつてね

耳鳴りだけジーンと鳴る中で

わしが声をかけた

義之 お嬢さんお嬢さん 言う声だけが真つ暗な闇の中で聞こえてきたんよ

マツ ワシもびっくりしたわいの 目の前でおなごが急に倒れるけえ

マツ お使いの途中じやった

義之 お店（たな）は、どちらで？

マツ この先、通りをまっすぐ行って、みつつめの四ツ路を右に、それから・・・

義之 マツ いっぺんに言われても覚えきれねえ。お嬢さん、近所までお送りしますよ
ほいじゃあ、あんた様に「迷惑」
義之 マツ いや、道で倒れて困っとるお嬢さんを無下に放ほうつていくことなんてできやせん
お嬢さん と聞こえて 正氣に戻ったとたん、あんたの顔が目の前に
義之 マツ わしこそ、このまま死んだらどうしようか？わしが交番に連れて行かれるん
か？とか考えたんで
マツ ウチこそまだ生娘じゃけえ 男の人の腕の中に抱きかかえられてどうしよう
か？思うとりました。
義之 マツ じゃがのう 起きていきなり
マツ アイスクャンディ！
義之 マツ じゃと！
マツ 仕方ないじゃろ、あの時店の女将さんがみんなのアイスクャンディを買ってき
ておくれよ ってあたしを使いに出したんだから
義之 マツ ワシの顔がアイスクャンディに見えたんかと思うたわい
マツ ぶっ アイスクャンディの方がマシじゃわ
義之 マツ ましとはなんや、自分の亭主を掴つかまえて
マツ まあ 若い娘を見たら デレっとなつて、融けてしまつところはそっくりじゃ
義之 マツ デレっど、とは何や！デレっどとは？そげなことを言うんじやったら他の男に
助けてもらえばよかつたんじや。そしたらのう・・・
マツ そしたらなんね？
義之 マツ なんでもないわい
マツ ほかの男と一緒になつたかも 知れんけえね
マツ まあ・・・
義之 マツ あんたはなんね！それでもよかつたんね？
マツ そんなわけやあないじやろうが
義之 マツ ねえ聞いとるん？
マツ ああ・・・
マツ あんた、ウチに何か隠し事しとる？
義之 マツ そがあなわけないじやろ
マツ ウフフ・・・
マツ なんて
マツ ウフフ あんたの心をのぞいとつた
マツ はあ？・・・
マツ あんた、次の休み 丘の上でお弁当食べようか？
マツ なんて、また急に？
マツ あんたと夫婦になつて、初めて行つた場所じやあや
マツ そうじやつたかのう？
義之 マツ いやじゃのお。もう忘れてしもおたんじや？
マツ おお そうじやつたな
マツ あんた、すれ違いの男がウチの尻を触つたつて怒りだして
マツ そりや、女房の尻触られて、ダメツとれるかい！
義之 マツ 相手の顔を殴つたら、顔を覆つた道具であんたの腕が切れて
マツ そうじやつたな・・・えらい血が出だして・
マツ 相手が逃げてしもうて判らずじまい
マツ ぱっくり開いた傷が この通り
義之 マツ ウチはうれしかつたよ ムキになつて怒つてくれて
マツ 時々傷がうづくわい。何やつとるんじやろうの！

マツ あの時、仲よう歩いた道が懐かしいねえ。いつか家族でこの道をまた歩こうかね、と話したっけ

義之 なにを言うんじや 二人でも仲良く暮らせりや、ええじやろうが

マツ ほんまに？

義之 ほんまよ

マツ じゃけど、あんたがウチを氣遣つてくれるんがうれしい・・・

義之 いや、そのなんじや・・・

マツ ちいと氣味悪いねえ。いっつもは、お国が、産めよ増やせよ国のため 子宝こたけ

報国ほうこくとなるべしと、いう「時勢にガキ一つ産めんのか？われと一緒にになったわしの身になれじやの、あんたのおっかさんがガキの産めない女は、早（はよ）

お別れてしまいなって言うとなつたくせに

ああそうじやのお・・・

マツ ウチやあ、まだこの身で味わったことの無かったことじゃけえね

義之 そうじやのう 神様もマツと一緒にになってからは、中々言うことを聞いてくれんのう

何をよね

マツ おまえのことじゃ

義之 ウチの何？

マツ つまり、わしとマツの子供のことじゃ

義之 それこそ、授かりもんじやけえ。仕方ないじやろ

マツ 氣味悪うなつてきたわいねえ あら、あんた。ますます、

別にな・・・

マツ 神様が、ウチみたいなさ器量のええ、おなごと巡り合わせてくれたんじやけえ

マツ ありがたいと思ひんさいや！

義之 そりや、神様かいの？マツにかいの？

マツ ウチにきまつとるじやろうが！

義之 マツにかっ？

マツ 当たり前じやろう！

問

義之 ホンマはな・・・

マツ なによ

義之 ホンマはな・・・

離婚届が入った上着をちらりと見ながら姿勢を正す義之

マツ ・・・何、やっぱしほかに好きな女でもできたん？

義之 いや、そうじやないんじやが、もうええ・・・

マツ 話したけりやあ、話せば？

義之 もうええ、もういっぺん顔を近づけてみると、やっぱわりやあええおなごじや

マツ なんじや、そがあなことが言いたかつたんかね？

義之 実はな・・・居酒屋のアキちゃんじやが、米問屋の旦那が鼻頂びやうていでの。これがま

マツ た入れ込んで、好きなおなごに髪飾り買わ、着物は仕立てるわ・・・

マツ そーいやあ、先日あの旦那から頼まれて着物仕立てた。奥様でなくアキちゃん

義之 のじや。じゃけえ表通りの美津姐さんのとこでなくウチのとこじやつたんか？

マツ そがあな ことじや

義之

マツ どおりでね それなら合点がいくよ
義之 誰にも言うんじゃないぞ

マツ ああ、言わんよ

義之

マツ ウチも黙っとつたんじゃがね

義之 なんじゃ？。通りで若い男に声でもかけられたか？

マツ ようわかったねえ。そうなんよ。ちょっと前のことじゃけど。まだ二十歳半ば

の若い子でね。夕方、食堂の前で『おねえさん粹ですネ』なんて声かけてくるから、『こう見えても亭主おるんよ』って言うっちゃったよ

義之 ああ、ほうかい

マツ そしたら、『僕は来週 外地に出征します 僕と一緒に酒を一杯付き合っても
義之 ならえませんか！』と、言うんよ。

マツ それでどうしたんか？

マツ まあ一応あんた みとおな旦那でも、亭主持ちだからって断つたがね それで
もって、お国のために明日をも知れぬ命じゃろ？。一杯。一杯。一杯だ
け。付きおうたんよ

義之 いやにうれしそうじゃないか

マツ ほんまに。一杯だけ。ちょっとだけ話したら。店出たんじゃけえ。

ウチもまんざらじゃないって思うてのお。いつ、あんたに捨てられてもひらつ
てくれる人があるんかな？なんてね。……

義之 よう言うのう

マツ それで、若い兵隊さん、『今まで女の人と、お酒を飲んだことがなかったの
で僕のような者でも相手にしてくれた礼に』と髪飾り買ってくれたんよ。まあ
ええじゃない。おなごに初めて髪飾りを買ってやったらしいけえ。……あ
んたさ、さあさ食べよ

義之 ・・・なんじゃ変なマツじゃのう まあええ。で、おまえもたべちゃあーお

マツ らんのか？

義之 そうじゃ

マツ この漬物、うまいのう

義之 ウチが漬けたんじゃけえ 美味いに決まっとる

マツ そりゃ、悪いこと言うたのう

義之 まんまはもう食べたんか

マツ ご馳走様でありました

義之 気持ち悪いね あんたがそげなこと言うなんて

マツ なんもありやせんわい

義之 ウチも、ご馳走様 おなかいっぱいじゃ

マツ もう食べんのか？いつもの半分も食べ取らんじゃろ？

義之 今日はこれ以上食べる気にならん ほいじゃあ 片付けるとするかね

マツ わりいのう 片付けさせて お前も ちいとおかしいのう

義之 あんたはしっかり食ベんさい しっかり仕事してもらわんといけんけえ

問

マツ そういやカッコウいうたら知つとりますか？
義之 なんのこと？

突然マツから、カッコウの話をして驚く義之

マツ 鳥のカッコウじゃけど、
マツ カッコウがどした？

マツ カッコウは、卵をほかの鳥の巣に産み付けるそうなの
マツ ほんまに？

マツ 子で子にならぬカッコウかな いう例えがあるらしいんよ
マツ ほかの鳥は、自分の子と知らずに育てるんか？

マツ そういうことじゃね よその土地から飛んで来てはほかの巣に卵を産み付ける
マツ そうよ

マツ カッコウは、そんなことしとるんじゃ
マツ ほんまよ カッコウは、こすいよね

マツ こすいんじやのうゝ ほんまの親鳥がそれを知ったらびっくりするけど、自分
マツ の子じゃ思うて大事に育てるんじゃろう？

マツ らしいね
マツ それでも子は育つよのう
マツ そういうことになるね じゃけえウチはカッコウはこすい 思う

マツ 見たこともないのに？
マツ 当たり前じゃ よそ様のとこに来て、よそ様に子を育てさせるんじゃ

マツ カッコウにも訳があるんじゃろうか？
マツ あるんかね？

マツ あるんじやろゝ
マツ あんたあ！ 上着が気になるんね？ さっきからじろじろみよるけ

マツ 何もありはせんよ なんじやのお、いなげな おなごじや
マツ 意を決したように、義之が上着をハンガーから外して手元に置きながら訥々

マツ (トツトツ)と話し始める

マツ あのな、マツ、聞いてくれ
マツ なんね？、ええ話かい？悪い話かい？

マツ まあなんじやのお・・・
マツ ウチからも話があるんじゃけど

マツ マツが義之に向かって座りなおし、義之を見つめる

マツ マツからとは何じゃ？

マツ ・・・
マツ なんじや、よう聞こえんのう

マツ じゃけえ、ウチ、ね！

マツ ちいと待った！わかった、それ以上言いんさんな！わしゃあもうエエよ。つま
マツ り われにワシ以外に好きな男ができても諦めとる、ワシに種がないから 子

マツ 供が欲しゆうてもできねえから
マツ なんだ？・・・あんたはそれでもええんじやね？ ねえ、返事しなよ！ ねえ

マツ 返事しなよ！

マツ 義之の浴衣をつかみ激しく揺さぶるマツ

マツ ・・・わしだってわしだってよ！不憫なんじやけえ

マツが箆笥の横に置いた風呂敷包みを義之の前に差し出す

マツ あんたあ これ見てや・・・
義之 われ これって??・・・ 風呂敷の中身は腹帯じゃあな一か
マツ そうで 子供ができたんで・・・
義之 わしの・・・子供?
マツ ああそうで。ウチにやあ おつかさんがいないからって トメさんが
マツ トメさんがこれを われに ってか?
マツ ・・・そう 昼間に行つて来たんじゃ
義之 そしたら まあ 気をつけるんよ と言つてくれんさつた
マツ そりや良かったのう
マツ もう、あんた一人の体じゃないんじや。やつと巡りおた神様の授かりもんじ
マツ や。大事に大事にするんよ。洗いもんや、おまんまの事なんか旦那にやらせと
マツ きやあえんじやあや! と言われたんよ!
義之 ほうじや、なんでもするで!
マツ トメさんがこう言うんよ ええんよ。やつと授かつたたんじや。ちいと
マツ こたあ旦那にやらせてもバチがあたりじやないよ
義之 口は悪いがホンマのことじや
マツ そがあな、もんなんかねえ

義之が上着から離婚届を取り出し、突然立ち上がり破り始める

マツ あんた!いきなり紙をやぶいて何しよるん?
義之 わしやあよ、子供がでけんあわしのせいじやゆうて思うてよ。マツのことが
マツ 不憫じゃけえいっそのこと、他の男と一緒になつた方が幸せじやないかゆうて
マツ 思うてよ 別れよう言つつもりじやつたんじや
マツ あんた・・・ そうようなことは、うちはとくに辛抱出来とります。嫁が辛
マツ 抱しとるのに、あんたが不憫がつてどうするんよ?
義之 それをそれを わしは馬鹿じやつた マツにやつと子ができたいうのにわしは、
マツ わしは
マツ あんたあ・・・
義之 ありがとうの ありがとうの

義之が下をうつむいたまま泣いている

マツが義之の手をそつとにぎる
マツが立ち 奥に下がり際、懐から布に包んだ髪飾りを取り出す

マツ 髪飾り 夢の中での戯れと 腹を摩つて彼方へと 目を向ける儂さかな

マツが髪飾りを布にまた包み、そつと箆笥の奥に収める

終り